



浪江町議会議長
平本佳司

新年のご挨拶

浪江町長
吉田栄光



新年明けましておめでとう
ございます。議会を代表しま
して、謹んでご挨拶を申し上
げます。
皆様におかれましては輝か
しい新年をお迎えのことと心
よりお慶び申し上げます。ま
た、日頃より議会への深いご
理解と、議会活動への温かい
ご支援・ご協力に対し、議員
一同、厚く御礼を申し上げます。
まず初めに、新型コロナウ
イルス感染拡大により様々な
影響を受けられた方々、不安
の中におられる方々に対しま
して、心からお見舞いを申し
上げます。
昨年を振り返りますと、一
昨年引き続き新型コロナウイルス
イルス感染拡大による影響
で、活動の制限、自粛など非
常に厳しい議会運営を迫られ
た1年でありました。皆様にお
かれましては、なかなか心
の晴れない生活を強いられ、
様々な面でご苦労された1年
だったのではなかったかと思
います。
このような中、議会改革の一
環として、事務の効率化、

この上ない喜びでありました。
津島、末森、室原の特定復
興再生拠点区域では、昨年9
月に準備宿泊が開始され、3
月の避難指示解除を目指して
準備が進んでいます。一方、
拠点区域外については、国か
ら示された「2020年代を
かけて、帰還意向のある住民
が帰還できるよう、避難指示
解除の取組を進める」との方
針に基づいて帰還に向けた意
見交換会が開催され、お一人
お一人から安心して生活する
ために必要な除染範囲につ
いてご意見を伺いました。これ
からも帰還を希望されるすべ
ての方が安心安全に生活でき
るよう、町はしっかりと国と
の協議を進めていくとともに、
地域の復興に向けた具体的な
方策を皆さんと一緒に検討し
てまいります。
**ゼロカーボンシティ
(脱炭素の町)実現に向けて**
町は、福島水素エネルギー
研究フィールド(FH2R)
で製造される水素を中心とし
て、再生可能エネルギーを活
用したゼロカーボンシティの
実現を目指しています。既に
町内では、先進的な実証実験
が多数実施されており、特に
ペーパーレス化を目指し、議
員向けタブレット端末の導入
を行い、令和4年9月定例会
からの運用を実現したところ
であります。今後も、議会改
革の足を止めることなく様々
な課題にチャレンジしていま
いりたいと思います。
さて、東日本大震災と東京
電力福島第一原子力発電所事
故からまもなく12年を迎えま
す。議会としては町民の皆様
がどのようなことを感じ、何
を求めているのかを意識し、
町民の声を、町はもちろん国
や県などにも届けるべく、努
めてまいります。
しかし、その一方で町民の
皆様から、「議会活動が見え
ない」、「議員が多すぎる」
などの厳しいご意見を数多く
頂戴しております。
それらのご意見を踏まえま
して、昨年は、十日市祭の場
で町民の皆様の声を直接聴く
機会を設けました。本年も町
民の皆様の声を直接聴く機会
を少しでも多く設け、議会が
すべきことを実践し、町民に
求められていることを一つで
も多く実現できるように、議員

一同、精一杯努力してまいり
ます。
また、令和4年12月定例会
で議員定数を削減し、これま
での16名から12名としまし
た。次回の選挙以降は、12名
の体制となりますので、これ
まで以上に議員同士、切磋琢
磨して、二元代表制の一翼を
担う議会として、常に町民に
寄り添い、わかりやすく開か
れた議会の構築に努めてまい
る所存であります。今後とも
町民の皆様のご指導・ご鞭撻
をお願い申し上げます。
結びに、今年一年が皆様に
とって良い年になりますよう、
心からご祈念申し上げます。
新年のご挨拶とさせていただきます。



- 浪江町議会議員
(議席番号順)
- | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 武藤 晴 男 | 紺野 豊 | 吉田 邦 弘 | 小澤 英 之 | 半谷 正 夫 | 紺野 則 夫 | 佐々木 茂 | 山本 幸 一郎 | 高野 武 | 渡邊 泰 彦 | 松田 孝 司 | 佐々木 勇 治 | 山崎 博 文 | 紺野 榮 重 |
|--------|------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|------|--------|--------|---------|--------|--------|

明けて令和5年 ご創建に
て新春をお迎えのこととお慶
び申し上げます。
今年一年の皆様のご健康と
ご多幸を心からお祈りいたし
ます。
皆さん、どのようなお正月
をお過ごしでしょうか。ふる
さとの復興は、未だ困難な道
でありますが、素晴らしい町
を創るため、皆さんと共に手
を取り合い、歩んでまいりま
すので、本年も何卒よろしく
お願いいたします。
昨年を振り返って
昨年における重要な出来事
として「福島国際研究教育機
構(FIREI)」の立地決定
が挙げられます。この施設は、
福島イノベーション・コース
ト構想の司令塔として、また、
町内に留まらず、福島県全体
の復興を支えるエンジンとし
て、創造的復興の中核に育て
ていかなければなりません。
世界に冠たる「創造的復興の
中核拠点」を目指し、まずは
国や県、周辺自治体とともに
計画を進めてまいります。
そしてコロナ禍が続く中、
3年ぶりに相馬野馬追が通常
開催されるなど、少しずつ町
民同士の絆を深める取組が再
開されました。また、子ども
達との運動会や十日市祭など、

この上ない喜びでありました。
津島、末森、室原の特定復
興再生拠点区域では、昨年9
月に準備宿泊が開始され、3
月の避難指示解除を目指して
準備が進んでいます。一方、
拠点区域外については、国か
ら示された「2020年代を
かけて、帰還意向のある住民
が帰還できるよう、避難指示
解除の取組を進める」との方
針に基づいて帰還に向けた意
見交換会が開催され、お一人
お一人から安心して生活する
ために必要な除染範囲につ
いてご意見を伺いました。これ
からも帰還を希望されるすべ
ての方が安心安全に生活でき
るよう、町はしっかりと国と
の協議を進めていくとともに、
地域の復興に向けた具体的な
方策を皆さんと一緒に検討し
てまいります。
**ゼロカーボンシティ
(脱炭素の町)実現に向けて**
町は、福島水素エネルギー
研究フィールド(FH2R)
で製造される水素を中心とし
て、再生可能エネルギーを活
用したゼロカーボンシティの
実現を目指しています。既に
町内では、先進的な実証実験
が多数実施されており、特に

水素の実用化においては世界
をけん引しています。
世界的建築家の隈研吾氏ら
とともに進めている駅前など
中心市街地の再開発において
も、町内で加工された木材を
使った建物や、再生可能エネ
ルギー地産地消の仕組みを盛
り込んでいます。一団地事業
として商業地域の再開発を進
め、この地域から町内全体に
賑わいを波及させてまいりま
す。
福島国際研究教育機構立地
の町として、環境に配慮した
豊かで暮らしやすい町づくり
を進めるとともに、浪江の子
ども達が自分たちのふるさと
を誇りに思うことができるよ
う、ゼロカーボンシティ実現
に向けた先進的取組を世界に
発信してまいります。
これからの町づくり
町長就任から5か月が過ぎ、
復興に向けた多くの課題も見
えてまいりました。
農業発展のためには、収益
性向上が重要です。そこで初
期負担軽減のために育苗施設
を建設しています。さらに、
競争力の高い作物を生産する
ため、耕畜連携による地力回
復を目指して復興牧場の建設
に取り組んでいます。最新の
技術を用いた防臭対策など地

元の負担を軽減するとともに、
併設される研究施設での研修
など、酪農業の振興とともに
交流人口拡大に貢献してまい
ります。
皆様にご不便をおかけして
いる医療・介護の面では、特
に北双地域における相互連携
を進めてまいります。各診療
所の位置づけを明確にし、地
域医療の中核として県立大野
病院の再開を県に対して求め
ていくとともに、介護施設に
ついては周辺の町村と連携、機
能分担を図ることにより、地
域として機能の充実を目指し
ていく所存です。
結びに
「子ども達の笑顔は私の宝
です。」
町長として、子ども達の笑
顔を守り、次の世代にふるさ
とを繋いでいく、その責任の
重さを実感しています。これ
から私は、全身全霊をかけて、
全力でその責任を全うし、必
ずふるさとの復興を成し遂げ
ます。
令和5年が皆様にとって素
晴らしい年となりますよう、
心よりお祈り申し上げます、新年
のご挨拶とさせていただきます。